

## 2022 年度人文社会科学部後援会支援事業報告書

申請者:齋藤義彦

事業区分:学生の教育研究活動支援

対称学年:3年次

参加人数:3人

実施日、場所:2022年11月20日、東京都内

目的:

- ① マスメディアが取り組む文化事業の実情を学ぶ
- ② 入国制限緩和、円安が訪日外国人の出足にどのような影響を与えているかを文化施設から見る

内容

- ① メディアが取り組む文化事業の実情を学ぶ

ジャーナリズム論を学ぶゼミとして、大手マスメディアである毎日新聞、NHKが主催する「東京国立博物館創立150周年記念特別展—国宝～東京国立博物館のすべて」を見学した。同展は国立博物館が所蔵する国宝を改めてフィーチャーすることで、国宝の貴重さを再認識する機会を提供し、国立博物館の役割の重要性を広く内外に訴えるために企画された。

まだ、動員数などはまとまっていないが、チケットが発売直後に完売するほどの人気で、大手マスメディアの取り組む文化事業が今なお強いニーズに支えられていることを実感することから研修は始まった。



るなど、メディアの文化事業は生涯学習や、一般市民の教養向上にも大きな役割を果たしていることが確認された。

チケットは時間が指定されているにもかかわらず、展示物を見るのに並ぶほどの盛況であることが確認できた。また正確な統計はないものの、小中学生を含む若年層の見学も多かった。メディアの文化事業が教育にも貢献していることがうかがわれた。

さらに「書跡」の展示では「円珍贈法印和尚位並智証大師諡号勅書」の小野道風の筆跡を見ながら熱心にメモを取る女性がい

## ②入国制限緩和、円安が訪日外国人の出足にどのような影響を与えているかを文化施設から見る



ジャーナリズム論を専攻するゼミとして日々の政治経済国際ニュースをチェックして分析している。その一環として、入国制限緩和、円安が訪日外国人の出足にどのような影響を与えているかを、外国人に最も人気の高い文化施設である「根津美術館」(東京都港区南青山 6-5-1)で観察することに取り組んだ。

時間制限のあるチケットでの入場であったが、中国、韓国、欧州やロシアからも観光客が訪れていることが確認できた。訪問時は特別展「将軍家の襖絵」が開かれ、室町～江戸時代の襖絵や屏風が展示されていた。中国の風景を題材に取った襖絵のほか、6曲1隻の「春夏耕作図屏風」「養蚕機織図屏風」(狩野元信[伝])が外国人も含めて特に注目を浴びていたようだ。さらに同時開催のテーマ展示では中国古代の青銅器が展示され、紀元前 11～13 世紀に作られた「双羊尊」(重要文化財)にも注目が集まっていた。

また同館は、広い庭園を散策することもできる。ちょうど紅葉の季節で、外国人の多くも散策し、写真撮影に興じていた。

上記のように出入国管理政策や経済情勢が身近な文化に大きな影響を与えていることが実感できた。